

4．森林づくり

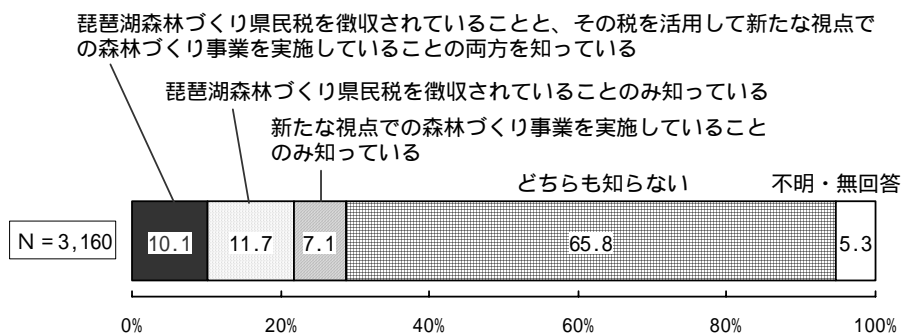
(1) 琵琶湖森林づくり県民税の認知度

問16 滋賀県では、県民のみなさんから琵琶湖森林づくり県民税をいただき、この税を使って『環境重視』と『県民協働』という新たな視点で森林づくりの事業を実施しています。このことについて、あなたはどの程度知っていますか。(は1つだけ)

琵琶湖森林づくり県民税の認知度は2割強

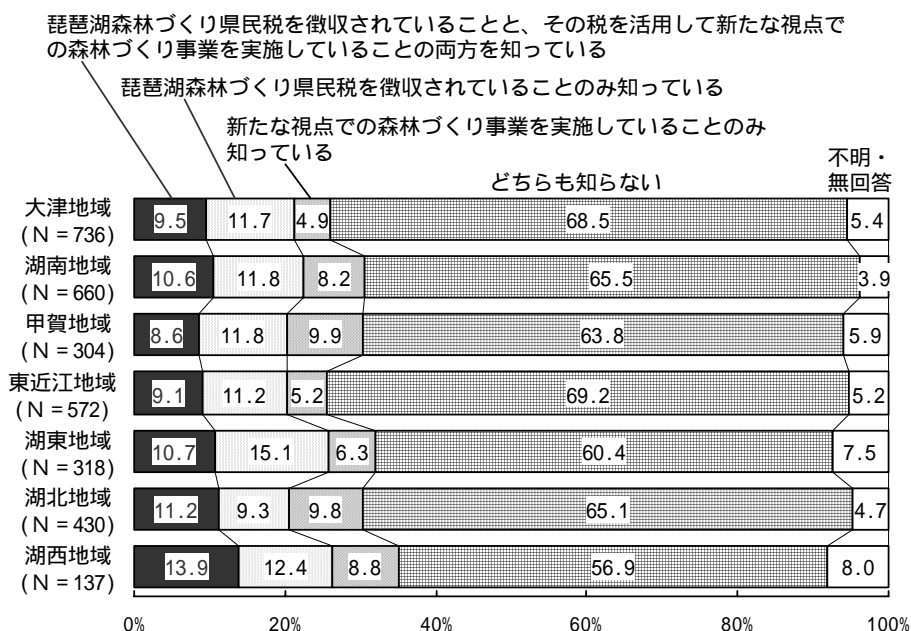
琵琶湖森林づくり県民税については、「どちらも知らない」が最も多く65.8%、次いで「琵琶湖森林づくり県民税を徴収されていることのみ知っている」が11.7%、「琵琶湖森林づくり県民税を徴収されていることと、その税を活用して新たな視点での森林づくり事業を実施していることの両方を知っている」が10.1%となっている。

また、『認知度』(「琵琶湖森林づくり県民税を徴収されていることと、その税を活用して新たな視点での森林づくり事業を実施していることの両方を知っている」と「琵琶湖森林づくり県民税を徴収されていることのみ知っている」の合計)は21.8%となっている。



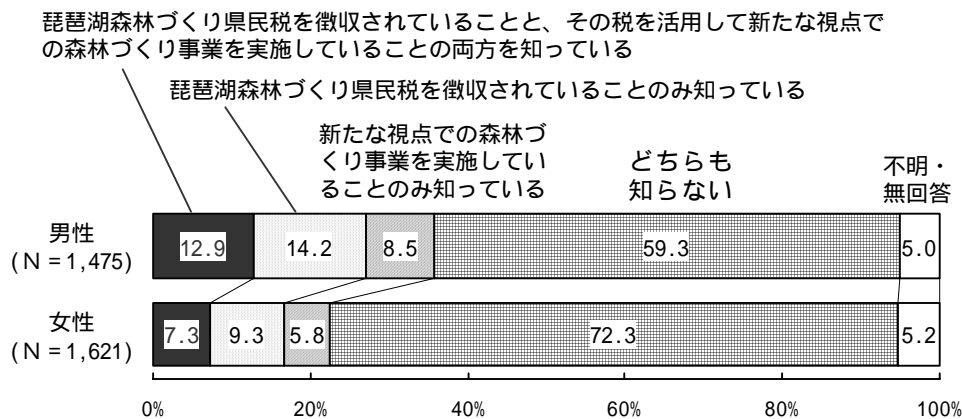
【地域別】

いずれの地域においても「どちらも知らない」が最も多くなっている。「琵琶湖森林づくり県民税を徴収されていることと、その税を活用して新たな視点での森林づくり事業を実施していることの両方を知っている」は湖西地域で最も高い13.9%、また甲賀地域では最も低く8.6%となっている。



【性別】

男女とも「どちらもしらない」が最も多く、男性59.3%、女性72.3%となっており、女性は男性より13.0ポイント高くなっている。



【性・年代別】

男女とも「どちらもしらない」が最も多いが、男性は年代が高くなるほど割合が低下している。「琵琶湖森林づくり県民税を徴収されていることと、その税を活用して新たな視点での森林づくり事業を実施していることの両方を知っている」は60歳代（19.6%）で最も高く、「琵琶湖森林づくり県民税を徴収されていることのみ知っている」は70歳以上で20.0%と最も高くなっている。

女性は「琵琶湖森林づくり県民税を徴収されていることと、その税を活用して新たな視点での森林づくり事業を実施していることの両方を知っている」の割合が20～40歳代で他の年代に比べて低く5.0%未満となっており、60歳代では19.1%と最も高くなっている。

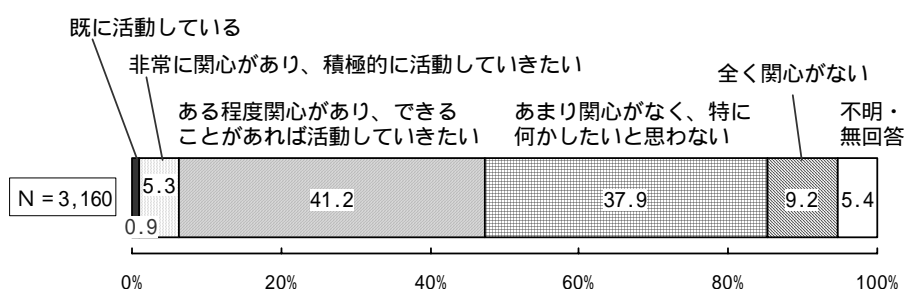
（２）森林づくり活動について

森林づくり活動への関心度

問17 あなたは森林づくり活動に関心がありますか。（ は1つだけ）

森林づくり活動の関心度は5割弱

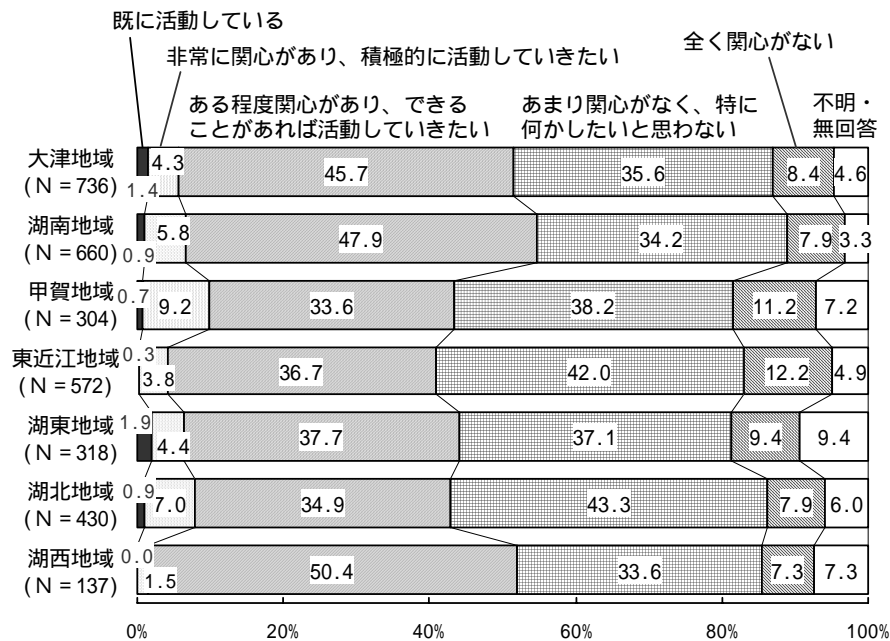
森林づくり活動に関心があるかについては、「ある程度関心があり、できることがあれば活動していきたい」が最も多く41.2%で、次いで「あまり関心がなく、特に何かしたいと思わない」が37.9%、「全く関心がない」が9.2%となっており、『関心度』（「既に活動している」、「非常に関心があり、積極的に活動していきたい」、「ある程度関心があり、できることがあれば活動していきたい」、「あまり関心がなく、特に何かしたいと思わない」、「全く関心がない」の合計）は47.4%となっている。



【地域別】

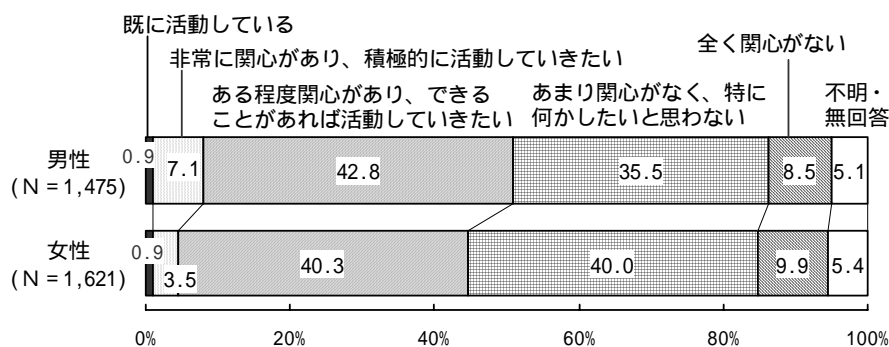
大津・湖南・湖東・湖西地域では「ある程度関心があり、できることがあれば活動していきたい」が最も多く、それ以外の地域では「あまり関心がなく、特に何かしたいと思わない」が最も多くなっている。

『関心度』は湖南地域が最も高く、54.5%となっている。



【性別】

男女とも「ある程度関心があり、できることがあれば活動していきたい」が最も多く、男性42.8%、女性40.3%となっており、男性は女性に比べ2.5ポイント高くなっている。



【性・年代別】

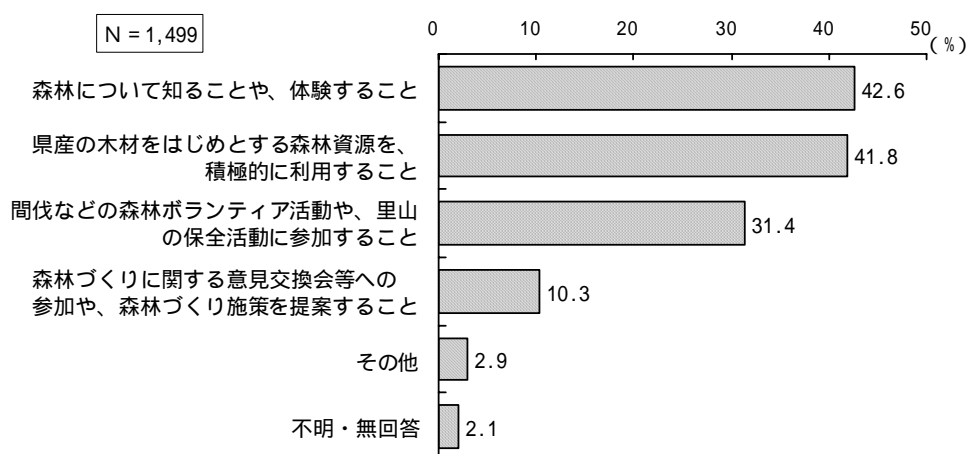
男性の20・40歳代、女性の40・50歳代、70歳以上で「あまり関心がなく、特に何かしたいと思わない」が最も高く、それ以外の年代は男女とも「ある程度関心があり、できることがあれば活動していきたい」が高くなっている。『関心度』は男性では60歳代が62.7%で、女性では20歳代の54.7%でそれぞれ最も高くなっている。

参加したい森林づくり活動

問18 問17で「1～3」のいずれかを回答された方におたずねします。
あなたが森林づくり活動で参加したいと思う内容は何ですか。(はいいくつでも)

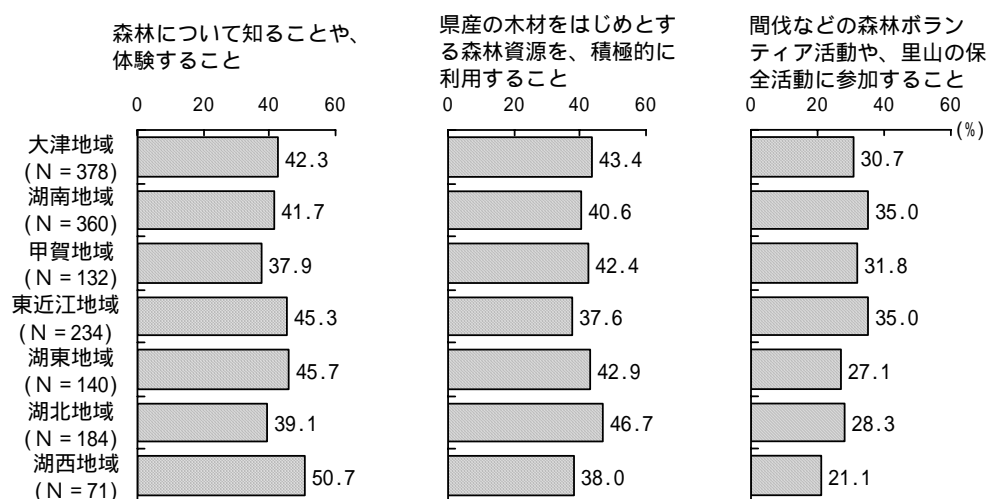
参加したい森林づくり活動は「森林について知ることや、体験すること」で42.6%

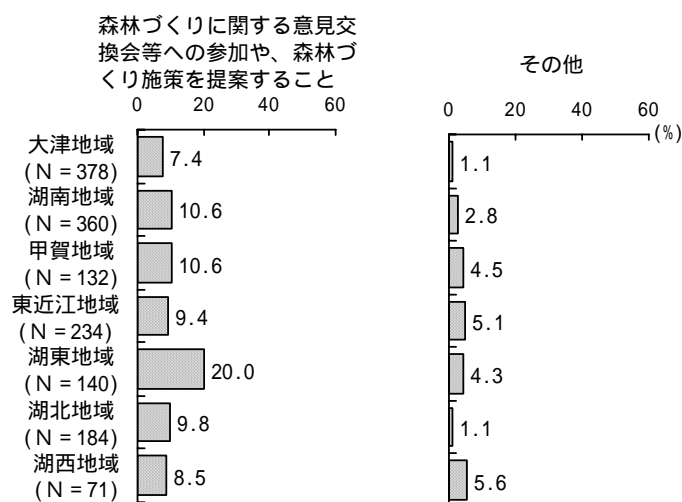
森林づくり活動に関心がある人に、参加したいと思う内容についてたずねると、最も多いのは「森林について知ることや、体験すること」で42.6%となっており、次いで「県産の木材をはじめとする森林資源を、積極的に利用すること」が41.8%、「間伐などの森林ボランティア活動や、里山の保全活動に参加すること」が31.4%となっている。



【地域別】

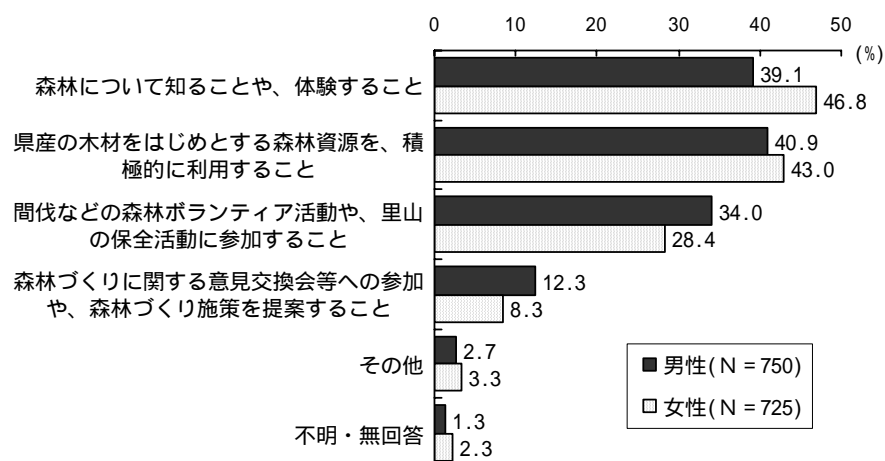
大津・甲賀・湖北地域では「県産の木材をはじめとする森林資源を、積極的に利用すること」が最も多く、それ以外の地域では「森林について知ることや、体験すること」が最も多くなっている。





【性別】

男性では「県産の木材をはじめとする森林資源を、積極的に利用すること」が40.9%で最も多く、次いで「森林について知ることや、体験すること」が39.1%となっている。女性では「森林について知ることや、体験すること」が46.8%で最も多く、次いで「県産の木材をはじめとする森林資源を、積極的に利用すること」が43.0%となっている。



【性・年代別】

男性では、20・40・60歳代で「森林について知ることや、体験すること」、「県産の木材をはじめとする森林資源を、積極的に利用すること」、30歳代と70歳以上で「県産の木材をはじめとする森林資源を、積極的に利用すること」、50歳代で「間伐などの森林ボランティア活動や、里山の保全活動に参加すること」が最も多くなっている。

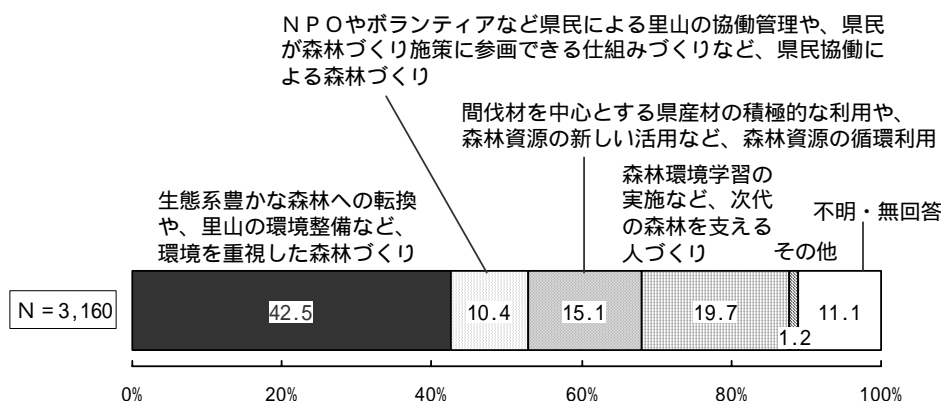
女性では、20～50歳代で「森林について知ることや、体験すること」、60歳以上で「県産の木材をはじめとする森林資源を、積極的に利用すること」が最も多くなっている。

(3) 琵琶湖森林づくり県民税の望ましい使いみち

問19 琵琶湖森林づくり県民税の使いみちとして、どのような森林づくりの分野に充てるのがもっとも望ましいと思いますか。この中から1つ選んでください。

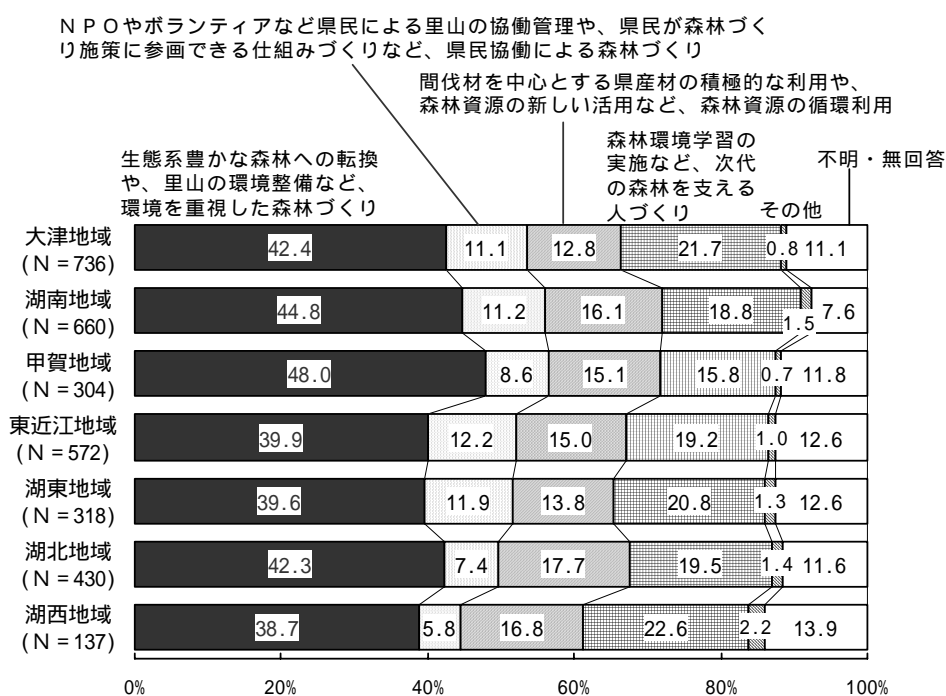
琵琶湖森林づくり県民税の使いみちは「生態系豊かな森林への転換や、里山の環境整備など、環境を重視した森林づくり」が42.5%

琵琶湖森林づくり県民税の使いみちについては、「生態系豊かな森林への転換や、里山の環境整備など、環境を重視した森林づくり」が最も多く42.5%となっており、次いで「森林環境学習の実施など、次代の森林を支える人づくり」が19.7%、「間伐材を中心とする県産材の積極的な利用や、森林資源の新しい活用など、森林資源の循環利用」が15.1%となっている。



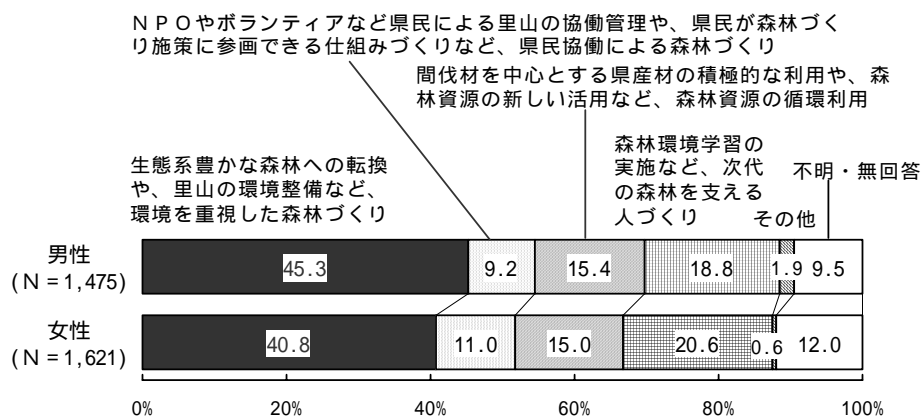
【地域別】

いずれの地域においても「生態系豊かな森林への転換や、里山の環境整備など、環境を重視した森林づくり」が最も多く40.0%前後で、甲賀地域では48.0%と最も割合が高い。



【性別】

男女とも「生態系豊かな森林への転換や、里山の環境整備など、環境を重視した森林づくり」が最も多く、それぞれ男性45.3%、女性40.8%となっており、男性は女性と比べ4.5ポイント高い。



【性・年代別】

男女とも全ての年代で「生態系豊かな森林への転換や、里山の環境整備など、環境を重視した森林づくり」が最も多くなっており、男性では40歳代が54.1%、女性では30歳代が50.6%と最も高くなっている。男女ともに70歳以上が最も低く、男性35.5%、女性30.1%となっている。